

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	4	単位数	3
教科	英語	グループ名	S, G1		
科目等名	英語コミュニケーション I				
ねらい	平易な英文を読み、内容の大枠を理解し、情報や考え方などを整理できる能力を養う。既習事項をふまえて、簡単な事柄を英語で表現できる力を養う。				
担当教員	飯田 由佳				
年間授業時数	105 時間				
使用教科書	My Way English Communication I				
副教材等					

学 習 計 画

	月	単元 (題材) 名	指導 時数	主な学習内容、ねらい (評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	Starter Proverb Around the World	3 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学既習の文法事項を復習する。 ・ 世界のさまざまなことわざについて知り、ことばと文化のつながりについて考える。【ことわざ、比較文化】 ・ 現在・過去、進行形、SV0(that)~の表現について理解を深める。 	視覚教材や板書を工夫しながら、個々の生徒の理解度に合わせて指導する。
	5	Iwago Mitsuki -An Animal Photographer-	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩合光照さんへのインタビューを通して、自然や動物と共生することの大切さについて学ぶ。【自然、共生】 ・ 助動詞+受け身の表現について理解を深める。 	
	6	Sending Canned Mackerel to Space	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生が宇宙食を開発した経緯を学び、日本の文化を発信することと高校生の可能性について考える。【若者、食文化】 ・ 動名詞、不定詞の表現について理解を深める。 	
	7	Messages from Winnie-the Pooh	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「クマのプーさん」シリーズを通して、作者が伝えようとしたメッセージについて考える。【芸術、異文化】 ・ 現在完了、現在完了進行形、過去完了の表現 C 	
	9	Endangered Languages	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「消滅の危機にある世界言語について学び、現代社会の要因やその解決策について考える。【ことば、比較文化】 ・ 関係代名詞、It is... to~ の表現について理解を深める。 	
後期	10	A Wheelchair Traveler	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三代達也さんの世界旅行経験から、バリアフリーな共生社会を実現することについて考える。【異文化、生き方、共生】 ・ 分詞の形容詞的用法、分詞構文、It is... that 節の表現の理解を深める。 	視覚教材や板書を工夫しながら、個々の生徒の理解度に合わせて指導する。
	11	The Fugees	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難民の子供たちのサッカーチームの話から、難民や移住者を受け入れて共生していくために重要なことは何かを考える。【平和、共生、スポーツ】 ・ 関係副詞、比較の表現の理解を深める。 	
	12	Avator Robots	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吉藤健太郎さんによる「分身ロボット」から、科学技術開発の魅力と社会貢献について考える。【科学、生き方、共生】 ・ if 節、仮定法過去の表現について理解を深める。 	
	1	Kadono Eiko and the Power of Imagination	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童文学作家である角野栄子さんの生き方から、自分の生き方について考える。【人物、生き方】 ・ SV00(O=how to~)、SV0 to 不定詞、SV0C (C=動詞の原形/現在分詞) の表現について理解を深める。 	
	2	SDGs	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs に関する問題と解決策の事例を学ぶ。【地球環境】 ・ さらにどのような課題があるのかを調べ、自らが取り組める行動について具体的に考えたり、発表したりする。 	
	3	Reading	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語文を鑑賞する。 	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	学んだ英語表現を用いて文章を読んだり、簡単な英文を書いたりすることができるか。目的や場面、状況に応じて、適切に活用する技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	外国語で書かれた情報や考えの概要や要点、書き手の意図を理解しているか。目的や場面、状況に応じて適切に表現することができるか。
主体的に学習に取り組む態度	授業に積極的に参加し、言語活動を行っているか。授業や家庭学習において、学んだことをノートやプリントなどに書き留めているか。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 定期考査 (2) 小テスト (3) ファイルやノート作り (4) 授業に取り組む態度

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	1	単位数	2
教科	英語	グループ名	Sグループ		
科目等名	論理表現 I				
ねらい	「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の3領域を中心とした、英語の基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、聞いたり、読んだりして得た情報や考えなどを、論理的に発信できるように思考力・判断力・表現力を身につける。				
担当教員	高尾 千優				
年間授業時数	70時間				
使用教科書	三省堂 MY WAY Logic and Expression I				
副教材等	いわずな書店 総合英語 Evergreen				

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	Lesson 1 Let's Talk about Ourselves	6	学校の場所について、基本的な語句や文を用いて尋ねたり、初対面の挨拶をしたり、自分自身のことについて、事実や自分の考え・気持などを整理し、発表したりすることができる。	視覚教材や板書を工夫しながら、個々の生徒の理解度に合わせて指導内容を工夫する。
	5	Lesson 2 School Life	6	学校に関連すること等について、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持などを伝えあったり、それらを整理し、正確に書いたりすることができる。	
	6	Lesson 3 The Arts	6	芸術に関連することなどについて、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持などを伝えあったり、それらを整理し、発表したりすることができる。	
	7	Lesson 4 Food and Culture	6	注文したい料理、日本の食文化、料理の作り方などについて、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持などを伝えあひ、それらを整理し、正確に書くことができる。	
	9	Lesson 5 Welcome to Our Town	6	観光の目的地、地域の特徴、電車やバスを使った観光地への生き方について、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持などを伝え合うことができる。	
後期	10	Lesson 6 Traveling Abroad	6	旅行での出来事、行ってみたい場所などについて、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持などを伝え合ったり、正確に書いたりすることができる。	視覚教材や板書を工夫しながら、個々の生徒の理解度に合わせて指導内容を工夫する。
	11	Lesson 7 Sports	6	スポーツの試合や、車いす協議、スポーツ選手などについて、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持などを伝え合ったり、発表したりすることができる。	
	12	Lesson 8 Everyday Technology	7	科学技術に関連することについて、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持などを伝え合ったり、正確に書いたりすることができる。	
	1	Lesson 9 Take Care	7	健康や体調に関連することについて、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持などを伝え合ったり、発表したりすることができる。	
	2	Lesson 10 SDGs — Take Action!	7	SDGsに関連することについて、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持などを伝え合ったり、正確に書いたりすることができる。	
	3	Basic Skills	7	1年間で学習した基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持をパラグラフライティングやスピーチ・プレゼンテーション、ディスカッション・ディベートを通して表現・説明することができる。	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	外国語の語彙、表現、文法などの特徴やきまり、意味を理解している。各レッスンで扱う表現を用いて、書いたり、発表したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え・気持を整理し、発表したり書いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	聞き手、話し手、書き手、読み手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて言語活動を行おうとしているか。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解の4観点から評価基準に従い、総合的に評価する。学期ごとに評価し、総合的に年間の評価を決定する。

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	4	単位数	2
教科	国語	グループ名	S・G1		
科目等名	現代の国語				
ねらい	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
担当教員	藤山 悦子				
年間授業時数	70時間				
使用教科書	東京書籍「新編現代の国語」(現国701)				
副教材等	新編現代の国語 学習課題ノート(準拠ノート)、常用国語便覧、国語便覧確認ノート、級別漢字学習、自作プリント				

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	自己を見つめる	5	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	電子黒板やホワイトボード等を活用する。拡大提示した本文に直接傍線を引く等、学習内容が理解しやすくなるように、視覚支援に努める。
	5	他者に出会う	14	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	
	6				
	7	言葉と生活1	4	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	
9	視野を広げる	8	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成		
後期	10	社会と関わる	8	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	
	11	言葉と生活2	13	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	
	12				
	1	世界とつながる 未来に目を向ける	18	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成	
	2				
3					

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能が身についたか。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができているか。
主体的に学習の取り組み態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうと努めているか。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 定期試験の実施 (2) 授業中に出す課題への取り組み方 (3) 長期休業中の課題や課題テストの実施
(4) 授業態度

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	4	単位数	2
教科	国語	グループ名	S・G1		
科目等名	言語文化				
ねらい	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
担当教員	藤山 悦子				
年間授業時数	70時間				
使用教科書	東京書籍「新編言語文化」(言文701)				
副教材等	新編言語文化 学習課題ノート(準拠ノート)、常用国語便覧、国語便覧確認ノート、級別漢字学習、やさしくくわしい古典文法、やさしくくわしい古典文法ノート、自作プリント				

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	現代文編1 随筆	5	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	電子黒板やホワイトボード等を活用する。拡大提示した本文に直接傍線を引く等、学習内容が理解しやすくなるように、視覚支援に努める。
	5	古文編1 古文入門 漢文編1 漢文入門 現代文編2 小説1	14	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	
	6				
	7	古文編2 随筆	4	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	
9	現代文編3 詩歌	8	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解		
後期	10	古文編3 詩歌 漢文編2 漢詩	8	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	
	11	現代文編4 小説2 古文編4 物語	7	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	
	12	漢文編3 論語	6	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	
	1	現代文編5 小説	6	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	
	2	古文編5 紀行	7	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	
	3	漢文編4 史話	5	【学習内容】文章の読解、語彙の用法、表現 【ねらい】語彙の拡充、読解力および言語による表現力の育成、韻文の理解	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができたか。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができているか。
主体的に学習の取り組み態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうと努めているか。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 定期試験の実施 (2) 授業中に出す課題への取り組み方 (3) 長期休業中の課題や課題テストの実施 (4) 授業態度

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	4 年	単位数	3
教科	数学	グループ名	SG1 グループ		
科目等名	数学 I				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式、図形と計量、集合と論証、二次関数およびデータの分析についての基本的な概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付ける。 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 ・習得した知識、技能の活用を通して、数学の良さを認識し数学を積極的に活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。 ・応用問題にも積極的に取り組み、より高い実力を育成する。 				
担当教員	伊東 靖雄				
年間授業時数	105				
使用教科書	実教出版 新編数学 I				
副教材等	実教出版 アクセスノート 数学 I 新課程版				

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	式の計算	8	単項式や多項式、整式について理解し、展開や因数分解等の計算処理の方法を身に付ける。 ・整式とその加法・減法 ・整式の乗法	<ul style="list-style-type: none"> ・板書、掲示物、電子黒板等の視覚的に理解しやすいものを積極的に活用する。 ・学習グループの実態に合わせて、扱う例題、演習問題を工夫する。
	5	式の計算 実数	10	実数の概念を理解し、根号を含む式の扱いができる。 ・因数分解 ・実数 ・根号を含む式の計算	
	6	1次不等式	10	不等式の意味や性質を理解し、1次不等式を解くことができる。 ・不等号と不等式 ・不等式の性質 ・1次不等式	
	7	集合と論証	9	集合と命題に関する基本的な事項を理解する。 ・集合 ・命題と条件 ・逆、裏、対偶	
	9	2次関数とそのグラフ	11	関数とそのグラフの概念、2次関数の性質や特徴を理解し、グラフの概形を表現することができる。2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・関数とグラフ ・2次関数のグラフ ・2次関数の最大と最小	
後期	10	2次関数とそのグラフ 2次方程式と2次不等式	10	与えられた条件からその2次関数を定めることができる。 ・2次関数の決定 ・2次関数のグラフと2次方程式	
	11	2次方程式と2次不等式	10	2次関数のグラフを利用して2次方程式や2次不等式の解について理解を深め、解くことができる。 ・2次関数のグラフと2次不等式	
	12	三角比	9	正接、正弦、余弦の意味や三角比の相互関係などを理解し、それらを利用することができる。 ・三角比 ・三角比の性質 ・三角比の拡張	
	1	三角比と図形の計量	9	正弦定理、余弦定理について理解し、それらを平面図形や空間図形に活用することができる。 ・正弦定理 ・余弦定理	
	2	三角比と図形の計量 データの分析	11	三角比を用いた三角形の面積公式について理解し、それらを平面図形や空間図形に活用することができる。 ・三角形の面積 ・空間図形の計量 ・度数分布 ・代表値 ・四分位数と四分位範囲	
3	データの分析	8	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を理解し、それをもとに事象の特徴を表現することができる。 ・分散と標準偏差 ・データの相関 ・データの外れ値 ・仮説検定の考え方		

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式、図形と計量、2次関数およびデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・数学を活用して事象を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や問題解決に向けて主体的に取り組む態度、数学の良さを認識し数学を積極的に活用する態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度を養おうとしている。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 定期考査や確認テストの実施 (2) 課題に対する取り組み方 (3) 授業態度、出席状況

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	4	単位数	2
教科	数学	グループ名	SG1 グループ		
科目等名	数学A				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の要素の個数に関する基本的な関係や数え上げの原則について理解するとともに、順列および組合せの意味を理解し、事象の構造などに着目して場合の数を求める方法を多面的に考察する力を養い、順列の総数や組合せの総数が求められるようにする。 ・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や簡単な場合についての条件付き確率や期待値を求められるようにする。 ・三角形や円や空間図形に関する基本的な性質について理解するとともに、図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだしたり、その性質について論理的に考察したり説明したりできるようにする。このとき、情報機器なども用いて、図形の性質について統合的・発展的に考察する力を養う。 ・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解するとともに、数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察する力を養う。 ・応用問題にも積極的に取り組み、より高い実力を育成する。 				
担当教員	迫田 亮太郎				
年間授業時数	70				
使用教科書	実教出版 新編数学A 数A707 数学A				
副教材等	実教出版 アクセスノート 数学A 新課程版				
学 習 計 画					
	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	場合の数	13	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の包摂関係や要素の個数など、集合に関する基本的な事項を理解する。 ・樹形図を用いて順列を理解し、順列の数を公式$_n P_r$を利用して求める。 ・円順列、重複順列の数を計算で求める。 ・組合せの考え方を理解し、組合せの数を公式$_n C_r$を利用して求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・情報機器を活用する。(電子黒板・デジタル教科書・PCなど) 2・重要事項は、ホワイトボードに短冊、模造紙を貼り、構成された板書にする。 3・日常生活の例を挙げ、興味・関心を高めるように支援する。 4・家庭学習が定着するために、宿題を出す。 5・学習の定着を図るため、練習問題を取り入れる。
	5				
	6	確率	19	<ul style="list-style-type: none"> ・試行と事象について理解し、事象の確率を順列組合せを利用して求める。独立な試行の確率の求め方を身に付ける。 ・期待値の意味を理解し、計算で期待値を求める。 ・条件付きの確率の意味を理解する。 	
	7				
9					
後期	10	図形の性質	19	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の角、相似比、重心・内心・外心について作図で求める。 ・三角形の垂心・傍心について作図で求める。 ・円周角の定理、円に内接する三角形(接弦定理)、円に内接する四角形、方べきの定理について内容と使い方を身に付ける。 	
	11				
	12				
	1	数学と人間の活動	14	<ul style="list-style-type: none"> ・素因数分解をすることで、最大公約数と最小公倍数を計算で求める。 ・ユークリッドの互除法を活用して、一次不等式を解放できる。 ・整数の性質の活用に応用する。 	
	2				
3	総合演習	5	数学Aの各分野や数学Iとも関連のある問題の演習をする。		

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数え上げの原則について理解して、順列、組合せの総数を求めることができる。 ・確率の意味を理解して、事象の確率を求めることができる。 ・三角形、円、空間図形に関する基本的な性質について理解している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・場合の数や確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、それを論理的に考察したり、説明することができる。 ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・確率を用いて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用しようとする。 ・図形の性質について統合的・発展的に考察することができる。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 定期試験の実施 (2) 長期休業中の課題や課題テストの実施 (3) 授業中に出す課題への取り組み方 (4) 授業態度